学校番号	414

令和２年度　国語科

教科	国語科	科目	国語表現	単位数	2	年次	3
使用教科書	国語表現　改訂版　（大修館書店）						
副教材等	「高校生用　手紙の書き方」（郵便局）「国語表現基礎演習ノート」（大修館）						

1　担当者からのメッセージ

・文章記述、文章創作、スピーチ、発表、など、アクティブな活動を取り入れた授業を行います。
・様々な文章を読んで「読む能力」を向上させ、コミュニケーションのための「話す能力」・「聞く能力」や意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けてください。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

2　学習の到達目標

・話題や題材に応じて情報を収集し、分析して自分の考えをまとめたり深めたりすることができる。
・さまざまな表現についてその効果を吟味したり、書いた文章を互いに読み合って批評したりして、自分の表現や推敲に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
・自身の経験から得たことや学んだこと、また他者の意見を聞いて新たに発見したことなどを客観的に文章にまとめることができる。
・目的や場にふさわしい語句を選んで、適切に思いや考えを表現することができる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	自らの経験を振り返り、必要に応じて人から聞いたり調べたりして、積極的に情報を集めようとしている。	意見の理由となる具体的な事実やできごとを明確に示しながら互いに意見を出し合い、他者の意見をふまえて自分の考えを深めていく。	自分の経験・体験とそこから得たこととを区別して、相手や目的、意図に応じた適切な表現により、自分の考えをまとめている。		常用漢字以外の漢字も文章を書く中で適切に使用し、また話し合いにおいては適切な言葉遣いを積極的に用い、基本的知識を確実に身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表・スピーチ等のパフォーマンスの評価）	記述の確認及び分析 （ワークシート、原稿用紙）		行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
一学期	書いて伝える	1　整った文を書く	○		◎		◎	a,c,e・主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解する。	・ワークシート ・小テスト ・定期テスト
		2　わかりやすい文を書く			◎		◎	c・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。 e・読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることの大切さを理解する。	・ワークシート ・小テスト ・定期テスト
		3　文のつなぎ方			◎		◎	c 接続表現の種類と働きを理解する e・文脈による文のつながりを理解する。	・ワークシート ・小テスト ・定期テスト
	小論文・レポート入門	1　小論文とは何か	○		◎		◎	e 小論文の基本的な書き方を理解する。 a,c,e 意見を筋道を立てて書く。 e 原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。	・ワークシート ・作品 ・小テスト ・定期テスト
		2　反論を想定して書く	○		◎		◎	a,c 自分の意見とは対立する意見を考慮しながら書くことの意味を理解する。 e 反論を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書く。	・ワークシート ・作品 ・小テスト ・定期テスト
		3　資料を読み取って書く	○		◎		◎	e 文章の要旨をつかむための方法を理解する。 a,c,e 資料に対する自分の意見を明確にして小論文を書く。	・ワークシート ・作品 ・小テスト ・定期テスト
		4　発想を広げて書く	○		◎		○	e 発想を広げるための方法を理解する。 a,c 発想を広げるための方法を活用して、小論文を書く。	・ワークシート ・作品 ・小テスト ・定期テスト
		5　レポートを書く	○		◎		○	e レポートの基本的な書き方を理解する。 a,c 客観的な根拠を集めて、説得力のあるレポートをまとめる。	・ワークシート ・作品 ・小テスト ・定期テスト
		6　論文を書くために			◎		○	c,e 論文執筆の進め方とそのポイントを理解する。 e 引用の方法、参考文献や注の示し方を理解する。	・ワークシート ・作品 ・小テスト ・定期テスト
	自己PRと面接	1　自分を見つめて	○	○	○			a,c 経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 b,c 他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。	・観察 ・相互評価、自己評価
		2　効果的な自己PR	○	○	◎			a,b,c 自分の特長を端的に表現した、印象に残るキャッチフレーズを作る。 b,c 事実やできごとをふまえて、効果的な自己 PR をする。	・観察 ・ワークシート ・作品 ・発表 ・相互評価、自己評価
		3　将来の自分を考えよう	○	◎	◎			b,c 就きたい職業に就くために必要なことを調べる。 a,b,c 調べたことをふまえて、「将来の自分」について文章にまとめる。	・観察 ・ワークシート ・作品 ・相互評価、自己評価
		4　志望動機をまとめよう	○	○	◎		○	b,c 志望先について十分な情報を集める。 a,b,c,e 調べたこと、やりたいこと、自己 PR の三つを結びつけ、説得力のある志望動機を書く。	・観察 ・ワークシート ・作品 ・発表 ・相互評価と自己評価

		5　面接にチャレンジ	○	◎	○		○	a,b,e 適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをする。 b,c 質問に対して、具体的で説得力のある答え方をする。	・観察 ・相互評価、自己評価
二学期	会話・議論・発表	1　相手や場面に応じた会話	○	◎			○	e 場面にふさわしい言葉遣いを考える。 a,b,e 適切な言葉遣いでロールプレイをする。	・観察 ・ワークシート ・相互評価、自己評価
		2　議論して結論を出す	○	◎			○	a,b,e 司会者などの役割を理解し、建設的な議論になるように協力し合いながら話し合いをする。 b 話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献する。	・観察 ・ワークシート ・相互評価、自己評価
		3　プレゼンテーションの工夫	○	◎	○		◎	a,b,c,e 視覚的資料を用いながら、効果的なプレゼンテーションをする。	・観察 ・ワークシート ・発表 ・相互評価、自己評価
		4　ショートスピーチをしよう	○	○			○	a,b,e 話すことの順序を考えて、わかりやすいショートスピーチをする。 b 話し手が話しやすい聞き方をする。	・観察 ・発表 ・相互評価、
	メディアを駆使する	1　通信文を書き分ける	○	◎	◎		◎	a,e さまざまな通信文の形式を理解する。 b,c 相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。	・ワークシート ・作品 ・小テスト ・定期テスト
		2　電話を使いこなす	○	◎			◎	a,e 初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。 b,e 相手に応じた適切な言葉遣いや応対のしかたを理解する。	・観察 ・ワークシート ・相互評価、自己評価
		3　ネット社会とコミュニケーション	○				◎	a,e ネットを用いたコミュニケーションの特長と使用する上での留意点を理解する。 e 電子メールを活用する上でのエチケットを理解する。	・作品 ・ワークシート ・小テスト ・定期テスト
		4　メディアと情報	○				◎	a,e 情報が編集されたものであることを理解する。 e メディアごとに立場や条件が異なり、情報の伝え方が異なることを理解する。	・作品 ・ワークシート ・小テスト ・定期テスト
三学期	文章を創作する	1　詩歌を楽しむ	○	○	◎		○	a,b さまざまな詩歌を読み、味わうことを通して、言語文化に対する理解を深める。 c,e さまざまな詩歌の鑑賞をふまえて、表現を工夫しながら詩を創作する。	・観察 ・ワークシート ・作品 ・相互評価、自己評価
		2　言葉で遊ぶ	○		◎		◎	a,e さまざまな言葉遊びを知り、おもしろさを味わうことを通して、言語文化に対する理解を深める。 c,e 言葉遊びの仕組みやおもしろさを理解し、オリジナルの作品を作る。	・観察 ・ワークシート ・作品 ・相互評価、自己評価
		3　エッセイを書こう	○		◎		○	a,e 着眼点、構成、文体、表現などに留意しながら、さまざまなエッセイを読み、味わう。 c,e 読んだエッセイを参考にして、効果的な表現を工夫しながら自分でエッセイを書く。	・作品 ・相互評価、自己評価
		4　パロディー物語を書こう	○		◎		○	a,e「吾輩は猫である」のパロディー物語を読み、表現上の工夫を理解する。 c,e 著名な小説の表現上の特徴をまねて、パロディー物語を書く。	・作品 ・相互評価、自己評価

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。